

〈解答〉

- ① 1 頭痛を憂ふる男  
 2 ア  
 3 〔例〕参詣して願をかけてくれた (12字)  
 4 いいしゆえ  
 5 (1) 〔例〕二匹の猿が自分の頭をもんでくれた夢を見た結果、頭痛が治った。  
 (2) オ  
 (30字)

配点 ① 1、4は各1点、他は各2点 10点満点

〈解説〉

①

「耳囊」は、江戸時代中期から後期にかけて根岸鎮衛によって書かれた全十巻の雑話集である。来訪者や古老の興味深い話を編集したもので、さまざまな怪談奇譚きだんや武士や庶民の逸事などが多数収録されている。

1 御徒勤むる某が頭痛に苦しんでいたことを読み取る。そして、文中には「頭痛を憂ふる男(＝頭痛に苦しむ人)」とあるため、この人物が御徒勤むる某と同一人物であるとわかる。

2 傍線②の「悩みぬれば」は、ここでは「苦しんでいるので」と訳す。また、「まじ」は「～ないでしょう」「～そうもない」などの打ち消し推量の意味を持つ助動詞。そのため、「御身かく悩みぬれば、参詣はなるまじ」は「あなたはこのように頭痛で苦しんでいるので、参詣はできないでしょう」という意味になるので、アが適当である。

3 礼とは、頭痛を憂ふる男から代参を頼みし男に対する礼であるため、自分の代わりに「参詣して願をかけてくれた」ことへの礼であることがわかる。

4 古文に出てくる語頭や助詞以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は、それぞれ「わ・い・う・え・お」に直す。さらに、「ゑ」は現在では使われなくなった文字で、「え」と読むため、「言ひしゆゑ」は「言いしゆゑ(いいしゆゑ)」となる。

5 (1) 某は「小猿二匹来りて頭痛をうちもみなどせし、その心持ちよきこと言ふばかりなし(＝小猿二匹がやって来て、頭痛のするところをもんで、その気持ちのよいことといったら、何とも言えない)」という内容の夢を見たのである。その結果については「頭痛全快して(＝頭痛が全快して)」とあるので、「二匹の猿が自分の頭をもんでくれた夢を見た結果、頭痛が治った。」などのようにまとめるとよい。

(2) 驚いた知人は、(某が夢で見たように)「社頭におびただしく猿の額あれば、全く神使の来りて御身の病をいやせしならん(＝神社の社殿の前に非常にたくさん猿の絵があったので、(猿が)神の使いとしてやって来てあなたの病気を治してくれたのかもしれません。)」と述べている。これを踏まえるとオが適当である。

〔現代語訳〕

徒歩で主人の警護をする、ある下級武士が頭痛に苦しんでいた。ある日強い頭痛がおこって悩んでいるときに、知人がきて、「頭痛には柏原大明神に行つて祈願するのがよい。あなたはこのように頭痛で苦しんでいるので、参詣はできないでしょう。私たちが代わつて参詣して、願をかけている間、信心しててください。」と説得して出ていったが、頭痛に苦しむ男は、痛みに耐えがたく枕をとつて寝転がつていたが、不意に眠り、小猿二匹がやって来て、頭痛のするところをもんで、その気持ちのよいことといったら、何とも言えない、と夢心地に思ったが、頭痛が全快して、目覚めたときに、あの代わり参詣をした男がきたので、起き出してその礼を述べると、「厚く願をかけてきたのできつと快いでしょう。」と言つたので、夢の中の出来事を言つたところ、その男は非常に驚き、「不思議なことですね。これまで私たちも気づかなかつたのですが、神社の社殿の前に非常にたくさん猿の絵があつたので、（猿が）神の使いとしてやつて来てあなたの病気を治してくれたのかもしれない。」と共に驚嘆したということだ。